

日本におけるチーフレジデントの役割と展望

○ 小杉俊介（飯塚病院総合診療科）

「チーフレジデント」という語句を聞かれたことがある方も多いと思います。しかし、実際に「どの程度いるのか」や「何をしているのか」は特に日本ではわかっていませんし、統一された業務もありません。

私たちは JACRA（日本チーフレジデント協会）を 2 年前に立ち上げ、その後普及活動などを行ってきました。その中で、北米のチーフレジデントとの違いや日本国内で見てもチーフレジデントがいたとしてもプログラムごとの違いがあることなどが見えて来ました。

今回は、そういった知見を踏まえて、日本版チーフレジデント（またはそれに準じる研修医・専攻医）の組織内での役割と今後の展望に関してみなさんと共有できればと思っています。

研修医や専攻医の皆さんがご自身のプログラムを皆さん自身の手でよりよくできることが卒後研修の質の向上につながると思います。

そもそも「チーフレジデントってなに？」や「いたらどんないいことがあるの？」という皆様にも役立つ内容をお話します。

小杉俊介（飯塚病院総合診療科、JACRA 共同代表）

2012 年熊本大学卒業。2014 年より飯塚病院総合診療科後期研修医。2016 年にチーフレジデント。現在同スタッフ。Hospitalist として勤務しつつ、医学教育(特に卒後)や医療の質改善を行なっている。